

# 平成 28 年度「逗子市学習状況調査」の分析結果(小学校)

## ○はじめに

平成 28 年 4 月 19 日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内小学校 5 年生を対象とし、国語、社会、算数、理科の 4 教科で、神奈川県 of 調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

## ○実施状況

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| (1) 調査実施日       | 平成 28 年 4 月 19 日 (火)   |
| (2) 実施教科        | 教科に関する調査 (国語、社会、算数、理科) |
| (3) 実施学校・学年・調査数 | 逗子市立小学校 5 年生 405 名     |

## ○逗子市調査結果の概要 (小学校 5 年生)

各教科の調査結果について以下に示す。正答率では、社会が最もよく 76.7%と高い数値を示している。国語、算数では、それぞれ 72.1%、72.0%となっており、理科については 68.0%と最も低い数値となっている。

表 各教科の調査結果 (正答率)

教科	調査児童数	平均正答率
国語	403 名	72.1%
社会	404 名	76.7%
算数	405 名	72.0%
理科	405 名	68.0%

## 国語

- ・国語は、調査児童数 403 人にて実施をした。その結果、平均正答数 16.6 問、平均正答率が 72.1%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 7 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「書く能力」（1 設問）が 71.7%、「読む能力」（6 設問）が 70.8%、「言語についての知識・理解・技能」（16 設問）が 72.6%と概ね良好な結果となっている。
- ・「読む能力」の各設問について平均正答率を見ると、『事実と意見の区別』が 75.4%と高い正答率となっている（問二（1））。一方、『中心となる語や文をとらえて要点を捉える』については 35.7%となっており、文相互の関係を整理して読む能力を苦手とする児童が多いことがわかる（問二（2））。
- ・「言語についての知識・理解・技能」については、『漢字の読み』が 82.1%以上とそれぞれ高い正答率となっている（問一（1））。一方、『ローマ字の書き』では正答率が 17.9%となっており（問一（6）（イ））、ローマ字を書くことを苦手としている児童が多いことがわかる。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

書く能力について	○授業の場面では、書こうとすることの中心を明確にするために、目的や必要に応じて、理由を挙げたり、わかりやすく説明するために事例を挙げたりすることができるように指導することが大切です。理由については、「なぜかという～」、「その理由は～」、「～のためです。」などの表現を、事例については、「例えば～」、「例をあげると～」、「～などが当たります。」などの表現を指導することが大切です。（問三）
読む能力について	○授業の場面では、読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため取り上げる中心となる語や文も変化します。指導事項の趣旨を踏まえ、児童自らが目的意識を持って主体的に取り組める言語活動を工夫し、言語活動をとおして指導事項を指導することが大切です。（問二（2））
言語についての知識・理解・技能について	○地名や人名などの固有名詞を含めた簡単な単語について、日常からローマ字で表記されたものを読み、また、書く習慣を身に付けるようにすることが大切です。（問一（6））

## 社会

- ・社会は、調査児童数 404 人にて実施をした。その結果、平均正答数 26.1 問、平均正答率が 76.7%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 8 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「社会的な思考・判断・表現」(7 設問)が 80.8%、「観察・資料活用の技能」(11 設問)が 67.1%、「社会的事象についての知識・理解」(16 設問)が 81.4%と概ね良好な結果となっている。
- ・「社会的な思考・判断・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『地域の人々の生産や販売』に関する問題が 93.8%と多くの児童に理解されている(問 2 (1) (ア))。一方、『飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理』に関する問題の一部では 33.2%となっており、学習してきたことを総合的に振り返り、適切に判断することを苦手とする児童が多いことがわかる(問 3 (2))。
- ・「観察・資料活用の技能」については、『災害及び事故の防止』が 95.8%と高い正答率になっている(問 5 (1) (ウ))。一方、『県(都、道、府)の特色』については 42.6%と低く、自分たちの住んでいる県の地形や産業などの特色を理解することを苦手とする児童がいることがわかる。(問 6 (1) (ウ))。
- ・「社会的事象についての知識・理解」については、『飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理』に関する問題 93.6%と高い正答率になっている(問 3 (1) (ア))。一方、『県(都、道、府)の特色』に関する問題の一部では 65.8%と低く、地図上での都道府県の位置を把握することを苦手とする児童が多いことがわかる。(問 8 (エ))。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

社会的な思考・判断・表現について	○飲料水を供給する仕事に携わる人々から消費地に供給されるまでの対策や事業について話を聞いたり、浄水場などの施設を見学したりして具体的に調べる活動をしましょう。(問 3 (2))
観察・資料活用の技能について	○県の特色を考える手掛かりとして、県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子などについて指導する際には、県内を通る主な道路や鉄道などの交通網、主な港や空港の位置、主な都市の位置などを取り上げて調べ、白地図に書き表して指導すると有効です。(問 6 (1))
社会的事象についての知識・理解について	○社会科の学習以外の場面でも、日常的に地図帳で各都道府県の名称と位置を確認する習慣を身に付けさせることが有効です。都道府県を表す地図を教室に常に掲示し、その活用を図るなど、教室環境を工夫した継続的な指導に努めましょう。(問 8)

# 算数

- ・算数は、調査児童数 405 人にて実施をした。その結果、平均正答数 23.8 問、平均正答率が 72.0%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 7 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「数学的な考え方」(9 設問) が 61.2%、「数量や図形などについての技能」(18 設問) が 75.6%、「数量や図形などについての知識・理解」(6 設問) が 77.4%と概ね良好な結果となっている。
- ・「数学的な考え方」の各設問について平均正答率を見ると、『四則に関する性質』に関する問題が 93.1%と多くの児童に理解されている(問二(1))。一方、『数量の関係を表す式』に関する問題では 46.4%となっており、数量を□、△などを用いてその関係を式にすることを苦手とする児童が多いことがわかる(問三(2))。
- ・「数量や図形などについての技能」については、『伴って変わる二つの数量の関係』が 96.3%と高い正答率になっている(問四(1)(ア))。一方、『面積の単位』については 21.5%と低く、単位と測定の意味を理解することを苦手とする児童が多いことがわかる。(問七(1))。
- ・「数量や図形などについての知識・理解」については、『資料の分類整理』に関する問題が 84.4%と高い正答率になっている(問四(2)(ア)(あ))。一方、『四角形の対角線』に関する問題では 66.7%となっており、四角形の対角線の意味について理解することを苦手とする児童が多いことがわかる。(問六(2)(イ))。

## 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

数学的な考え方について	○個数と代金の関係を表にするなど、視覚的にわかるように配慮し、二つの数の関係を見つける活動を大切にしましょう。その上で、その関係を□や△を使った式に表すなど、児童の思考に沿って理解が深まるようにしましょう。さらに式の意味を考え、順番を意識した立式ができるように確認しましょう。(問三(2))
数量や図形などについての技能について	○身の回りにあるものの面積を実際に測定する活動を取り入れ、面積を求めたり、様々な場面で単位を用いたりすることを通して、単位の大きさや面積の求め方について、実感を伴ってより確実に理解が深められるようにしましょう。(問七(1))
数量や図形などについての知識・理解について	○実際に四角形やその対角線をかく活動を通して、辺の長さや対角線の性質を調べたり、平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めたときに同じ大きさの角や平行線の性質に気づいたりするなど、実感的な理解を深める指導をしましょう。(問六(2))

## 理科

- ・理科は、調査児童数 405 人にて実施をした。その結果、平均正答数 19.0 問、平均正答率が 68.0%、平均正答率が 60%以上の児童は全体の 7 割以上を占めている。
- ・観点別の平均正答率については、「科学的な思考・表現」（8 設問）が 69.8%、「観察・実験の技能」（2 設問）が 57.3%、「自然事象についての知識・理解」（18 設問）が 68.4%と概ね良好な結果となっている。
- ・「科学的な思考・表現」の各設問について平均正答率を見ると、『光電池の働き』に関する問題が 93.3%と多くの児童に理解されている（問四（2））。一方、『人の体のつくりと運動』に関する問題では 44.4%となっており、人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の動きであることへの理解が不足している児童が多いことがわかる（問二（1））。
- ・「観察・実験の技能」については、全体的に正答率は 5～6 割程度であり、『虫眼鏡の使い方』が 50.6%となっている（問一（4））。
- ・「自然事象についての知識・理解」については、『水の蒸発』に関する問題が 92.3%と高い正答率になっている（問五（3））。一方、『沸騰・水蒸気』に関する問題では 23.2%と低くなっており、水が温められると水蒸気になり、冷やされると氷になる様子を絵や図で理解することを苦手とする児童が多いことがわかる。（問八（3））。

### 調査結果を踏まえた指導の工夫・改善

科学的な思考・表現について	○他の動物の体のつくりや動き、運動を観察したり、実際に触れながら比較したり、映像や模型を活用したりしながら、人の体のつくりと運動とのかかわりについて捉えることができるようにしましょう。（問二（1））
観察・実験の技能について	○虫眼鏡等の観察道具の使い方については、忘れている児童もいると思われるので、その都度使い方について説明することが大切です。（問一（4））
自然事象についての知識・理解について	○やかんの注ぎ口付近の見えない部分にガラス棒などを当て、水滴がつくことを確認したり、沸騰した水の中から出てくる泡を集め、冷やすことで、この泡は空気ではなく水が変化したものであることを気付くことができるような活動が考えられます。（問八（3））